

授業科目の区分	専門分野Ⅰ《基礎看護学》					
授業科目	看護の概念					
開講年次・学期	1 年次・前期					
単位（時間）	1（30）					
担当講師	①《副校長》看護師としての実務経験あり ②《保健所保健師》 ③《岡山県看護協会》					
科目のねらい	看護学の中で最初に学ぶ科目です。看護の歴史的変遷を踏まえ、看護の主要概念である人間・健康・環境・看護について、広い視点で学びます。また、人々の健康に寄与する看護職について理解し、医療の中の看護の役割と機能、看護活動の場についての概略を学ぶ科目です。さらに看護を追究する姿勢や学ぶ方法を知り、これからの学修に活かすことをねらいとします。					
到達目標	看護全般の概念をとらえ、看護の位置づけと役割を理解し、看護の本質を追究する姿勢を養う。					
授業計画	回	内容と方法	事前学習	事後学習		
	1（2h）	1. 授業ガイダンス（講義）・看護への導入 基礎看護学の位置づけ		これから学ぶ看護学について考える	①	
	2（2h）	2. 看護の歴史的な変遷（講義）	提示資料を読む			
	3（2h）	3. 人間と生活（講義）	自分の生活・健康について考える	学習内容の整理をする		
	4（2h）	4. 健康と環境（講義）				
	5（2h） 6（2h） 7（2h） 8（2h） 9（2h）	5. 看護の概念（講義・演習） 様々な看護の定義 ナイチンゲールの看護論 課題図書の共有	ナイチンゲールの看護の考え方について考える	事例から看護で あること・ないことを考える		
	10（2h）	6. 保健・医療・福祉システムと看護（講義）				
	11（2h）	7. 保健医療福祉チームにおける保健師の役割				
	12（2h） 13（2h）	8. 看護における倫理（講義）				
	14（2h）	9. 現代の保健・医療・福祉が直面する課題（講義） 西日本豪雨災害の活動と看護職の役割	「看護者の倫理綱領」の熟読。 現代の保健・医療・福祉の課題について考える	これからの社会に求められる看護を考える	①	
	15（2h）	10. 終了試験とまとめ			②	
					①	
						③
						①
	必携文献	1) 茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔1〕看護学概論，医学書院，2021. 2) 社団法人日本看護協会監修：2021 年版 看護者の基本的責務—定義・概念／基本法／倫理，日本看護協会出版会， 3) F. ナイチンゲール，湯楨 ます他訳：看護覚え書，現代社，2011.				
	参考文献	1) 厚生統計協会編：厚生指針 国民衛生の動向				
成績評価方法	事前学習、出席状況、参加姿勢、レポート提出、客観テストで評価し、6 割以上を合格とする。					
備考	人々の健康や豊かな生活を支えていく看護を学ぶ第一歩です。自己の問いを育みつつ考えを深めていきましょう。					

授業科目の区分	専門分野Ⅰ《基礎看護学》			
授業科目	看護の探究			
開講年次・学期	1 年次・後期			
単位（時間）	1（20）			
担当講師	《副校長》看護師としての実務経験あり			
科目のねらい	学問としての看護学を学習する導入部として「看護学」に関する理論を多角的に学び、看護を追究する態度を養う。			
到達目標	理論（科学）的根拠をもとに看護実践していくための看護理論の活用ができるための基礎能力を身につける。			
授業計画	回	内容と方法	事前学習	事後学習
	1（2h）	1. 授業ガイダンス（講義） 看護実践における看護理論・看護研究活用の意義	各看護理論の主要概念を学習する。	レポート① 一番関心のある看護理論を選択し、その概要と自己の考えをまとめる。
	2（2h）	2. 代表的な看護理論（講義・GW）		
	3（2h）			
	4（2h）			
	5（2h）	3. 事例研究発表会に向けてのグループワーク	レポート② 事例研究発表会の集録を熟読し、質問を考える。 事例研究発表会参加後、学びをまとめる。	
	6（4h） 7	4. 事例研究発表会参加		
	8（2h）	5. 自己の看護実践から学ぶ	基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱの体験を基に看護実践を振り返り、文献を活用し再考する。	
9（2h） 10（2h）	6. 看護観の発表会	レポート③ 自己の看護に対する考えをまとめる。 発表会に向けてプレゼンテーションの準備及び他者の看護観を熟読する。 学生主体で運営する。		
必携文献	1）茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔1〕看護学概論，医学書院，2016. 2）筒井真優美：看護理論 看護理論 20 の理解と実践への応用 改訂第2 版，南江堂，2015.			
参考文献	1）F. ナイチンゲール著，湯慎ます訳：看護覚え書，現代社，2000. 2）V. ヘンダーソン著，湯慎ます・小玉香津子訳：看護の基本となるもの，日本看護協会出版会，2006. 3）J. トラベルビー著，長谷川浩・藤枝知子訳：人間対人間の看護，医学書院，1974. 4）栗田 裕子監修：看護診断のためのよくわかる中範囲理論，学研 他に授業の中で紹介します。			
成績評価方法	出席状況、参加姿勢、レポート提出で評価し、6 割以上を合格とする。			
備考	今後の看護実践に活かせるように、様々な文献を読み、思考を深めていきましょう。			

授業科目の区分	専門分野Ⅰ《基礎看護学》			
授業科目	人間関係成立の技術			
開講年次・学期	1年次・前期			
単位（時間）	1（30）			
担当講師	《教務部長》看護師としての実務経験あり			
科目のねらい	看護行為に共通する援助技術の1つとして本科目を設定し、人間と人間との関わり合いの中で看護が成立することを学ぶ。そして、効果的なコミュニケーションのための知識、技術、態度を学ぶ。また看護における教育的支援の目的を理解し、効果的なアプローチ法やカウンセリング技法について学ぶ科目である。			
到達目標	コミュニケーションの意義を理解し、効果的なコミュニケーションのための知識、技術、態度について学ぶ。また、相談、カウンセリングの意義を理解し、カウンセリングの代表的な技法を学ぶ。			
授業計画	回	内容と方法	事前学習	事後学習
	1 (2 h)	体験学習（伝言ゲーム） 言語的コミュニケーションに影響する要因やコミュニケーションを学ぶ意義を考える 医療者がコミュニケーションについて学ぶ意義		体験を通じて学びシートを記述する
	2 (2 h)	コミュニケーション問答 体験を通して様々なストロークのあり方と自己の傾向を考える		体験を通じて学びシートを記述する
	3 (2 h)	透析療法を選択する患者の理解を通じて コミュニケーションを学ぶ意義と目的 コミュニケーションの定義、 コミュニケーションの構成要素と成立過程 医療におけるコミュニケーション		体験を通じて学びシートを記述する
	4 (2 h)	接遇について		講義を通じて学びシートを記述する
	5 (2 h)	ベットのサイドにおけるコミュニケーション	事例をもとにベットのサイドのコミュニケーションの計画を立てておく	体験を通じて学びシートを記述する
	6 (2 h)	関係構築のためのコミュニケーションの基本 効果的なコミュニケーションの実際 コミュニケーション能力と倫理 インフォームドコンセントと看護師の役割 ペイシェントアドボカシーとしての活動		
	7 (2 h)	情報収集について 医療者間での情報共有 アサーティブコミュニケーション		講義を通じて学びシートを記述する
	8 (2 h)	積極的傾聴・共感的理解・カウンセリングの意義 ポーターの態度分析		講義を通じて学びシートを記述する
	9 (2 h)	ケアリング 人権と看護		講義を通じて学びシートを記述する
	10 (2 h)	プロセスレコードとロールプレイ	検討事例を熟読し 事前学習と状況イメージをする	体験を通じて学びシートを記述する
	11 (2 h)	自己理解と他者理解	検討事例を熟読し 事前学習と状況イメージをする	体験を通じて学びシートを記述する

	12 (2 h)	健康学習を支援し成長を促す技術		講義を通じて学び シートを記述する
	13 (2 h)	健康学習を支援し成長を促す技術 看護における教育・指導とは 健康に生きることを支える教育・指導 健康状態の変化に伴う教育指導 看護のなかに含まれる教育指導		講義を通じて学び シートを記述する
	14 (3 h)	演習：共感ロールプレイ		体験を通じて学び シートを記述する
必携文献	1) 茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ，医学書院，2021.			
参考文献	1) 藤崎郁他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ，医学書院，2021.			
成績評価方法	参加姿勢、レポート提出、客観テストで評価し、6割以上を合格とする。			
備考				

授業科目の区分	専門分野Ⅰ《基礎看護学》				
授業科目	医療・療養環境を整える技術				
開講年次・学期	1年次・前期				
単位（時間）	1（30）				
担当講師	①《専任教員》看護師としての実務経験あり ②《専任教員》看護師としての実務経験あり				
科目のねらい	看護行為に共通する援助行為の1つとして本科目を設定する。人間にとっての環境の意味を理解し、快適・安全な環境を整える方法について学ぶ。				
到達目標	①療養生活の環境を整える技術を修得する。 ②安全な医療環境を整える技術を修得する。				
授業計画	回	内容と方法	事前学習	事後学習	担当
	1 (2h)	・ベッドメイキングを実際に体験する ・療養生活の環境について考える		・体験のなかでの気づきをまとめる。ポイント・根拠を整理する。	①
	2 (2h)	・患者体験・看護者体験を通して患者の生活する場である環境について考え、環境調整技術を学習する ・療養生活の環境を調整するための基礎的知識 ・プライバシー ・看護技術	・「病室」をイメージする。	・病室の環境調整を行うために必要な知識を整理し、方法、手順練習し身につける。事後課題	
	3 (2h)	・様々な状況の対象者を想定してリネン交換を行う ・リネンの役割 ・対象者に適したリネンの工夫 ・臥床患者のリネン交換 ・ボディーマカニクス、ポジショニング	・ベッドメイキング体験から、事例患者に対するリネン交換の方法を考える。課題シート	・対象者にとって適切なリネン交換の方法を練習し身につける。インパクトシート	
	4 (2h)	・ボディーマカニクスの考え方を理解する ・看護の主要概念である「環境」について考える ・望ましい療養環境について考える	・「望ましい療養環境」をイメージする。	・対象者が快適かつ安全・安楽に生活できる環境について整理する。	
	5 (2h)	・様々な状況、場を知り、療養生活の環境を整える技術を考える。 ・「病院」の環境を考察する	・倉敷中央病院の「環境」に関連すると考える情報について調べる。	・「病院」という環境が人間にとってどのような影響があるのか考える。	
	6 (2h)	・病院における環境について考察し、患者をとりまく望ましい環境について考える ・グループワーク、発表	・病院見学後の学びを整理する。	・望ましい環境について整理する。	
	7 (2h)	・療養生活の環境をアセスメントする上で基本となる環境要因、環境条件を考える ・療養環境を整える技術に必要な知識を整理する ・技術試験についてのガイダンス	・環境について自らの意見が述べられるようにする。	・看護における環境とは何か理解し、人間に与える影響について自身の見解を示す。	
	8 (2h)	療養環境における危険と安全をまもる技術 ・看護における安全の意義 ・療養環境における安全の阻害因子	・なぜ看護において安全が大切なのか考える。	・看護における安全を保障する方法について考える。	②
	9 (2h)	感染予防を推進する技術《感染予防の基礎知識》 ・感染予防の意義・感染症と感染 ・感染症を成立させる要素と成立過程	・感染予防のために日常行っていることは何か。	・今まで罹患した感染症について感染を成立させた条件と要素を考える。	

	10 (2h)	感染予防を推進する技術《感染予防の基礎技術》 ・スタンダードプリコーション ・感染経路別対策	・日常行っている手洗い方法を確認しよう。	・衛生的な手洗い方法を身につける。 ・学生同士で衛生的な手洗い方法を評価する	
	11 (2h)	感染予防を推進する技術《患者に適した器材：医療器材の取り扱い》 ・病原体除去の方法 ・器具の使用目的・方法に応じた医療器材の処理方法	・医療器材の処理方法について調べる。	・医療器材がどの処理方法が適しているのか考えよう。	
	12 (2h)	演習：感染予防を推進する技術《無菌操作の実際》 ・無菌操作 ・ガウンテクニック・滅菌手袋	・無菌操作について調べる。	・無菌操作で患者のガーゼ交換を実施する。	
	13 (2h)	演習：感染予防を推進する技術《無菌操作の実際》 ・無菌操作 ・ガウンテクニック・滅菌手袋 ・他のグループの無菌操作をチェックする。	・無菌操作の原則、手順をまとめる。	・より正確に無菌操作でガーゼ交換をする方法を考える	
	14 (2h)	技術試験 ベッドメイキング 無菌操作	自己練習	レポート	① ②
	15 (1h)	感染予防を推進する技術《感染性廃棄物の取り扱いと血液媒介病原体対策》 ・感染性廃棄物 ・血液媒介病原体対策	・血液媒介病原体について調べる	・感染から自己を守るための感染予防について考える。	
	(1h)	終了試験			① ②
必携文献	1) 任和子他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ, 医学書院, 2021. (①②) 2) 任和子・秋山智弥編集：根拠と医療事故防止からみた 基礎・臨床看護技術, 医学書院, 2017. (①②) 3) 松下由美子他：ナースング・グラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全, メディカ出版, 2021. (②)				
参考文献	1) 佐藤達夫監修：新版 からだの地図帳, 講談社, 2013. 2) 坂井健雄著：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学, 医学書院, 2018.				
成績評価方法	①②ともに、事前学習、出席状況、参加姿勢、レポート提出、終了試験（筆記試験）および技術確認で評価し、6割以上を合格とする。				
備考					

授業科目の区分	専門分野Ⅰ《基礎看護学》			
授業科目	フィジカルアセスメント			
開講年次・学期	1年次・前期			
単位（時間）	1（30）			
担当講師	《専任教員》看護師としての実務経験あり			
科目のねらい	看護行為に共通する援助技術の一つとして本科目を設定する。看護職は、対象となる人のいのちと暮らしを護るため、対象の状態をアセスメントし、適切な看護を提供するという役割を担っている。本科目では主に、身体的な情報を意図的に収集し、判断、共有するための思考を学ぶ。五感を駆使したフィジカルイグザミネーションの技術、私たちが把握することのできる身体の反応と身体内部で起こるそのメカニズムを統合し、対象の身体をアセスメントする基礎的能力を身につけることをねらいとしている。			
授業計画	回	内容と方法	事前学習	事後学習
	1	講義：本授業で学ぶこと フィジカルアセスメントの意義とバイタルサイン	体温、呼吸、循環のしくみ	学びの整理シート
	2	講義：バイタルサインの観察とアセスメント 「体温」「呼吸」	体温と呼吸に関する基礎知識	学びの整理シート
	3	講義：バイタルサインの観察とアセスメント 「脈拍」「血圧」（触診法／聴診法）	循環に関する基礎知識	学びの整理シート
	4	講義：バイタルサインの観察とアセスメント 「意識レベル」 バイタルサインの影響とその変動因子 身体計測（身長、体重、腹囲）	意識に関する基礎知識	学びの整理シート
	5・6	演習：バイタルサインの測定（実習室） 身体計測	測定方法の確認	バイタルサイン測定のコツと戦略
	7	試験：血圧測定 確認テスト	技術練習	確認テスト自己学習
	8	講義：フィジカルアセスメントのすすめ方 フィジカルアセスメントに必要な技術		学びの整理シート
	9	講義・演習：呼吸器系のフィジカルアセスメント 異常呼吸音の性質の把握、種類の判断 異常・正常呼吸音のリスニング パルスオキシメーターの落とし穴	呼吸器の解剖生理 自分の呼吸音の聴診をする	学びの整理シート
	10			
	11	講義・演習：循環のフィジカルアセスメント 血圧、静脈圧、心音、心尖拍動、	循環器の解剖生理 自分の心音を聴診する	学びの整理シート
	12			
	13	「みんなで考えよう！フィジカルアセスメント」	事例課題に関連する学習	学びの整理シート
	14	実習で役立つフィジカルイグザミネーション 腹部の見方、MMT、関節可動域、意識レベル、 深部静脈血栓と肺塞栓	イレウスの種類、意識レベルの判定方法・種類、MMT	学びの整理シート
	15	終了試験 講義		看護におけるフィジカルアセスメントの意義
必携文献	1）茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ，医学書院，2021。 2）山内豊明著：フィジカルアセスメントガイドブック目と手と耳でわかる，医学書院，2011。			
参考文献	1）佐藤達夫監修：新版 からだの地図帳，講談社，2013。 2）坂井健雄著：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学，医学書院，2018。 3）任和子・秋山智弥編：根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院 2017。			
成績評価方法	事前課題提出状況、客観テスト（リスニングテスト含む）、レポート課題で評価し、6割以上を合格とする。詳細な評価視点は授業の中でお伝えします。			
備考	本授業の心得 1 感じて学ぶ 2 自分で学ぶ 3 みんなで学ぶ			

授業科目の区分	専門分野Ⅰ《基礎看護学》				
授業科目	日常生活援助技術				
開講年次・学期	1年次・前期				
単位（時間）	1（30）				
担当講師	① 《専任教員》看護師としての実務経験あり ② 《所属：倉敷中央病院 歯科衛生士》				
科目のねらい	フロレンス・ナイチンゲールは「看護師は自分の仕事に三重の関心をもたなければならない。ひとつはその事例に関する理性的な関心、そして病人に対する（もっと強い）心のこもった関心、もうひとつは、病人の世話と治療についての技術的（実践的）な関心である。」と述べています。本科目では看護者として三重の関心を注げるように、他の科目で学んだ知識も活用しつつ、対象の見つめ方や考え方や直接関わるわざの基礎を学びます。				
到達目標	対象の日常生活を援助するための考え方と原理・原則や基礎的な方法を身につける。				
授業計画	「日常生活援助技術の統合」と合わせて進める。				
	回	内容と方法	事前学習	事後学習	
	1 (2h)	1. 活動・休息援助技術 活動・休息援助技術の基礎知識 ・活動の生理学的メカニズム ・体位の種類と身体的影響・同一体位の有害性	自己の日常生活における活動を思い返す。 基礎看護技術ⅡP94～100を読む。	活動にかかわる人体の構造と機能を確認する。活動・休息援助技術の基礎知識を整理する。	①
	2 (2h)	活動・休息の意義や援助の方法を自らの体験をもとに考える。体位変換の援助方法と原理原則	演習をもとに安楽な体位にすること、活動を促す援助方法を考える。	演習の気づきと関連させ活動・休息の意義を理解する。体位変換や移動の援助方法について確認する。	
	3 (2h)	2. 安楽について考える ・安楽とは ・安楽な体位の保持 ・リラクセーション ・睡眠の生理学的メカニズム ・入眠・睡眠のアセスメントと援助方法	基礎看護技術ⅡP127～P136、P138～142を読む。	睡眠と休息の基礎知識を整理する。	
	4 (2h)	苦痛の緩和・安楽を促進する電法の基礎知識と援助の実践	基礎看護技術ⅡP142～150を読む。	苦痛の緩和・安楽を促進する援助をふりかえる。	
	5 (2h)	3. 清潔・衣生活援助技術 清潔・衣生活の意義を自らの体験をもとに考える。	自己の日常生活における清潔を思い返す。	演習の気づきと関連させ清潔・衣生活の意義を理解する。	
	6 (2h)	清潔・衣生活援助技術の基礎知識 ・皮膚・粘膜の生理的メカニズム ・被服気候、熱産生・熱放散 ・清潔援助の身体への影響	基礎看護技術ⅡP152～P211のなかの各援助技術の基礎知識を読む。	清潔にかかわる人体の構造と機能を確認する。清潔・衣生活援助技術の基礎知識を確認する。	
	7 (2h)	清潔援助方法 ・足浴、手浴、洗髪の方法	演習をもとに清潔の援助方法を考える。	清潔の援助方法について、基礎知識を用い、整理する。	
	8 (2h)	清潔援助方法 ・陰部洗浄	演習を基に陰部ケアを考える。	演習の気づきと関連させ、陰部ケアの意義や方法を考える。	
	9 (2h)	4. 食事援助技術 食事の意義を自らの体験をもとに考える。 食事援助の基礎知識 ・栄養状態のアセスメント ・医療施設で提供される食事 ・摂食嚥下訓練の基礎知識 ・嚥下のメカニズム	自己の日常生活における食事を思い返す。 基礎看護技術ⅡP26～P47を読む。	食事・栄養にかかわる人体の構造と機能を確認する。食事援助技術の基礎知識を確認する。	

	10 (2h)		食事援助の基礎知識 ・口腔ケア	基礎看護技術ⅡP195～202、歯・口腔 P256～274 を読む。	口腔ケアの方法について基礎知識を用い、整理する。	②
	11 (2h)		非経口的嚥下栄養摂取の援助方法 ・経管栄養法 ・中心静脈栄養法排泄の意義、	基礎看護技術ⅡP47～56 を読む。	非経口的嚥下栄養摂取の援助方法について、基礎知識を用い、整理する。	
	12 (2h)	5. 排泄援助技術	援助を自らの体験をもとに考える。	事前課題:実際にオムツを装着する体験をし、レポートを記入する。 自己の日常生活における排泄を思い返す。	体験を他者と共有し、排泄に対する気づき・考え方を整理する。演習の気づきと関連させ排泄の意義を理解、援助の留意点を整理する。	①
	13 14 (4h)		排泄援助の基礎知識 ・排泄器官の機能と排泄のメカニズム ・排泄のアセスメント	基礎看護技術ⅡP58～P65 を読む。	排泄にかかわる人体の構造と機能を確認する。排泄援助技術の基礎知識を確認する。	
	15 (2h)		筆記試験 看護技術テスト演習			
必携文献	1) 任和子他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ，医学書院，2021. 2) 任和子・秋山智弥編集：根拠と医療事故防止からみた 基礎・臨床看護技術，医学書院，2017. 3) 小島愛子：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔15〕歯・口腔，医学書院，2020. 4) 池西静江編：改定4版 看護学生のためのヘルス・アセスメント・ハンドブック，メディカ出版，2016. ＊看護技術経験録					
参考文献	1) 佐藤達夫監修：新版 からだの地図帳，講談社，2013. 2) 坂井健雄著：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学，医学書院，2018.					
成績評価方法	事前学習、出席状況、参加姿勢、レポート提出 30% 終了時に筆記試験 70%で評価し、6割以上を合格とする。					
備考						

授業科目の区分	専門分野Ⅰ《基礎看護学》			
授業科目	日常生活援助技術の統合			
開講年次・学期	1年次・前期			
単位（時間）	1（30）			
担当講師	《専任教員》看護師としての実務経験あり			
科目のねらい	ナイチンゲールは看護を「art and science」であるとも述べています。看護師には患者の事実に即して最善の方法を工夫することが求められています。本授業では、事例に基づいて、日常生活援助の必要性や目的、方法を考え、演習を行います。また、患者役、観察者となり他者の立場から見る体験と看護者として身体を動かす体験を繰り返しながら、チームで気づき・学びを共有しながら わざの訓練をします。			
到達目標	事例に基づいた日常生活援助を具体的に体験することを通して、看護技術を修得する。			
授業計画	「日常生活援助技術」と合わせて進める。			
	回	内容と方法		事前学習
	1 (2h)	授業ガイダンス ・看護技術の特徴とどう学んでいくか ・事前学習と事後学習の説明 ・演習に参加する心構え、準備するもの ・援助過程の展開について		基礎看護技術ⅠP2～15、基礎看護技術ⅡP2～8を読む。
	2, 3 (4h)	1. 活動・休息援助技術	チームで演習を行う ・移動の方法 ・援助方法を繰り返し実施し、練習する。	移乗・移送の実際を確認する。基礎看護技術ⅡP103～126を読む。
	4 (2h)	2. 清潔・衣生活援助技術	チームで演習を行う ・事例をもとに清拭・寝衣交換の援助を考える。 ・援助方法を繰り返し実施し、練習する。 ・衣服の選び方、寝衣交換、全身清拭、部分清拭の方法 ・整容（身だしなみを整える、髭剃り、結髪、爪、皮膚の手入れ）	清潔・衣生活援助技術の基礎知識を用い、事例に基づいて援助計画を立案する。
	5 (2h)		チームで演習を行う ・事例をもとに足浴、手浴、洗髪の援助を考える。 ・援助方法を繰り返し実施し、練習する。	清潔・衣生活援助技術の基礎知識を用い、事例に基づいて援助計画を立案する。
	6 (2h)	4. 食事援助技術	チームで演習を行う ・実際に医療施設で提供される食事を食べ、食事援助方法を考える。 ・事例をもとに、食事援助、口腔ケアを考える。 ・援助方法を繰り返し実施し、練習する。	食事援助技術の基礎知識を用い、事例に基づいて援助計画を立案する。
	7 (2h)		チームで演習を行う ・事例をもとにモデル人形に経管栄養法を実施する。 ・援助方法を繰り返し実施し、練習する。	食事援助技術の基礎知識を用い、事例に基づいて援助計画を立案する。
	8 (2h)	5. 排泄援助技術	チームで演習を行う ・事例をもとに、自然排尿及び自然排便の援助、陰部ケアの方法を考える。 ・床上排泄の援助を実施し、練習する。	排泄援助技術の基礎知識を用い、事例に基づいて援助計画を立案する。

	9 10 (4h)		チームで演習を行う ・事例をもとに、排泄援助を考える。 ・事例をもとにモデル人形に浣腸、導尿を実施する。 ・援助方法を繰り返し実施し、練習する。	排泄援助技術の基礎知識を用い、事例に基づいて援助計画を立案する。	演習の振り返り、実施を整理、評価する。援助方法の原理原則を確認する。
	11 ～ 13 (6h)		看護技術試験演習 事例をもとに、複数の援助技術項目を組み合わせ、援助計画を立案する。 事例に基づいた患者を想定し、繰り返し練習を行い、技術を修得する。 看護技術試験（実技含む）		
	14,15 (4h)		基礎看護学実習Ⅰ-2（日常生活援助） 総合カンファレンス		
必携文献	1）茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ，医学書院，2021. 2）任和子他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ，医学書院，2021. 3）任和子・秋山智弥編集：根拠と医療事故防止からみた 基礎・臨床看護技術，医学書院，2017. ＊看護技術経験録				
参考文献	1）佐藤達夫監修：新版 からだの地図帳，講談社，2013. 2）坂井健雄著：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学，医学書院，2018.				
成績評価方法	レポート・参加姿勢（演習記録）30%、看護技術試験演習70%で評価し、6割以上を合格とする。				
備考	単元毎にチームを組み、演習を行うため、体調を整えて全日程の出席を望みます。 演習時に使用するもので、各自準備してもらうものがあります。授業で伝えます。 看護技術試験演習はプロジェクト学習を取り入れます。詳細はオリエンテーションで伝えます。 技術試験に合格しなければ、基礎Ⅰ(日常生活援助)実習に行くことができません。				

授業科目の区分	専門分野Ⅰ《基礎看護学》				
授業科目	診療に伴う援助技術				
開講年次・学期	1年次・後期				
単位（時間）	1（30）				
担当講師	①《専任教員》看護師としての実務経験あり ②《実習指導教員》看護師としての実務経験あり ②《所属：倉敷中央病院 集中ケア認定看護師》				
科目のねらい	診療に伴う援助技術とは、医学的検査や治療の際、それらに付随して発生する対象の苦痛や不安を軽減しつつ、一方では検査の目的や治療の効果が最大限に達成されるように、その過程全般を支援する技術である。こうした技術においてより安全で安楽な技術を対象者の状態に応じて工夫するためには、援助の基本原則を根拠に基づき理解する必要がある。 本科目では、診療に伴う援助技術の原理・原則を理解し、対象に適切な援助を提供するための基礎的な方法について理解することを目指す。				
到達目標	1) 診療・検査に携わる看護師の役割について理解する 2) 診療・検査を受ける対象者について理解する 3) 診療・検査に伴う援助を基本原則に基づき理解する				
授業計画	回	内容と方法	事前学習	事後学習	
	1 (2h)	講義 「授業ガイダンス」 「診察・検査の介助技術」 「症状・生体機能管理技術（検体検査〔尿検査・便検査・喀痰検査〕）」 小テスト	・診療を受けた経験（内容や感じた事など）を基に、診療に携わる看護師の役割について検討する。 ・保助看法で規定されている看護師の定義と業務について調べる。	特記なし	①
	2 (2h)	講義 「症状・生体機能管理技術（検体検査〔血液検査〕）」 小テスト	・血液検査の種類と、動脈と静脈の違いについて学習する。	特記なし	
	3・4 (3h)	講義 「与薬の技術（与薬の基礎知識）」 小テスト	・剤形の種類と吸収・排泄経路について学習する。 ・「オブジーボ [®] 点滴静注」の添付文書をインターネットからプリントアウトし、講義に持参する。	特記なし	
	5 (2h)	講義 「与薬の技術（経口与薬・吸入・点眼・点鼻・経皮的与薬・直腸内与薬）」 小テスト	特記なし	・各与薬法の手順について確認する。	
	6 (2h)	講義 「与薬の技術（注射〔基礎知識〕）」 小テスト	・表皮から筋層までの構造について学習する。	特記なし	
	7 (2h)	講義 「与薬の技術（注射〔皮下注射・皮内注射〕）」 小テスト	特記なし	・「皮下注射・皮内注射」の適応・禁忌・必要物品や実施方法について学習する。	

	8 (2h)	講義 「与薬の技術（注射〔筋肉内注射・静脈内注射〕）」 小テスト	特記なし	・「筋肉内注射・静脈内注射」の適応・禁忌・必要物品や実施方法について学習する。	①
	9 (2h)	講義 「与薬の技術（静脈内注射（輸液速度の調整・中心静脈カテーテル））」 小テスト	・中心静脈の名称と走行、薬剤の用量を表すさまざまな単位とその換算について学習する。	・滴下速度等の計算問題プリント 提出有	
	10 (2h)	講義 「創傷管理技術（創傷処置（包帯法））」 小テスト	・皮膚の構造と機能について学習する。	特記なし	
	11 (2h)	講義 「創傷管理技術（創傷処置（創洗浄と創保護））」 小テスト	・褥瘡発生メカニズムと好発部位について学習する。	特記なし	
	12 (2h)	講義 「呼吸・循環を整える技術（酸素吸入療法・吸入）」 小テスト	・呼吸器の構造と機能（ガス交換）について学習する。	特記なし	②
	13 (2h)	講義 「呼吸・循環を整える技術（吸引・排痰ケア）」 小テスト	・呼吸器の構造と機能（異物・病原体の除去）について学習する。	・「吸引」について DVD で手順を確認する。	
	14 (2h)	講義 「救命救急処置技術」			③
	15 (2h)	講義 「死の看取りの技術（施設内での臨終の見まもりと死後のケア）」 小テスト	・死後に起こるご遺体の変化の特徴について学習する。	特記なし	①
	16 (1h)	終了試験			① ② ③
必携文献	1) 任和子：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ，医学書院，2021. 2) 任和子・秋山智弥編：根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術，医学書院，2017. 3) 香春知永他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護総論，医学書院，2016. 4) 恒藤 暁他編：系統看護学講座 別巻 緩和ケア，医学書院，2020.				
参考文献	1) 佐藤達夫監修：新版からだの地図帳，講談社，2013. 2) 坂井健雄著：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学，医学書院，2018. 3) 高木永子監修：看護過程に沿った対症看護 第5版 病態生理と看護のポイント，学研，2018.				
成績評価方法	終了試験を行い、6割以上を合格とする。				
備考	日程調整の都合により、講義内容が前後する場合があります。				

授業科目の区分	専門分野Ⅰ《基礎看護学》				
授業科目	診療に伴う援助技術の統合				
開講年次・学期	1年次・後期				
単位（時間）	1（30）				
担当講師	①《専任教員》看護師としての実務経験あり ②《実習指導教員》看護師としての実務経験あり ③《所属：倉敷中央病院 集中ケア認定看護師》				
科目のねらい	本科目では、診療に伴う援助技術を安全・安楽に実施できる基礎的能力を習得し、健康障害のある対象の症状・障害に応じた看護援助について理解できることを目指す。演習ではみなさんがイメージしやすく臨場感のある事例を基に、「診療に伴う援助技術」における基本技術の習得を目指しつつ、対象者への応用を体験する。また、援助者・対象者双方を体験することにより、援助技術に対する考察を深めていく。				
到達目標	1) 健康障害のある対象の症状、障害に応じた看護援助について理解する 2) 健康障害のある対象の診断、治療過程に伴う苦痛や症状を緩和する看護援助について理解する 3) 診療に伴う援助技術を安全に実施できる能力を修得する				
授業計画	回	内容と方法	事前学習	事後学習	
	1(4h)	演習 「与薬の技術（皮内注射・皮下注射・筋肉内注射・静脈内注射）」	・各回、事例患者に演習項目の看護技術が行われる目的と留意事項について検討する。 ・看護技術経験録で演習技術のチェック項目について確認し、演習に持参する。 事前課題	・演習した技術に関して考察する レポート提出	①
	2(2h)	演習 「与薬の技術（内用薬・外用薬）」 「創傷処置を受ける対象者への看護（包帯法）」			
	3(4h)	演習 「呼吸・循環を整える技術（酸素吸入療法・吸入・吸引）」			②
	4(2h)	講義 「治療・処置を受ける対象者への看護（放射線療法を受ける対象者への看護）」	・放射線の特徴と放射線療法の原理について学習する。		①
	5(2h)	講義 「主要な症状を示す対象者への看護（安楽に関連する症状を示す対象者への看護）」	・痛みの種類と発生機序について学習する。		
	6(2h)	講義 「手術療法を受ける対象者への看護」	・麻酔の種類、侵襲に伴う生体反応、術後合併症とその発生機序・症状について学習する。 ・手術体位が器官系の機能に及ぼす影響について学習する。 事前課題	・グループワークや発表での学びを整理する レポート提出	
	7(2h)				
	8(2h)				
	9(2h)				
	10(2h)	講義 「集中治療を受ける対象者への看護」			③
	11(2h)	講義・演習 「救命救急処置技術（BLS）」			
	12(2h)	講義 「医療機器の原理と実際」			
	13(1h)	終了試験（筆記試験）			①
	14(1h)	看護技術テスト			②
必携文献	1) 任和子他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ，医学書院，2021. 2) 香春知永他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 臨床看護総論，医学書院，2016. 3) 矢永勝彦・小路美喜子編：系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論，医学書院，2017.				

	4) 任和子・秋山智弥編：根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術，医学書院，2017. 5) 中島恵美子他：ナースィング・グラフィカ成人看護学⑤周手術期看護，メディカ出版，2017.
参考文献	1) 佐藤達夫監修：新版からだの地図帳，講談社，2013. 2) 坂井健雄著：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学，医学書院，2018. 3) 高木永子監修：看護過程に沿った対症看護 第5版 病態生理と看護のポイント，学研，2018. 4) 山内豊明著：フィジカルアセスメントガイドブック 目と手と耳でここまでわかる，医学書院，2011. 5) 田中越郎著：系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進〔2〕病態生理学，医学書院，2016. 6) 奈良信雄編：系統看護学講座 別巻 臨床検査，医学書院，2019. 7) 福田国彦他：系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学，医学書院，2021.
成績評価方法	①事前学習を含むレポート提出と終了試験による評価 ②看護技術テストによる評価 ①②それぞれにおいて、6割以上を合格とする。
備考	

授業科目の区分	専門分野Ⅰ《基礎看護学》			
授業科目	看護実践の基礎			
開講年次・学期	1年次・後期			
単位（時間）	1（20）			
担当講師	《専任教員》看護師としての実務経験あり			
科目のねらい	健康障害を持つ対象者の看護においては、健康障害に伴う症状や障害が日常生活に及ぼす影響が少なくなく、検査・治療に携わることからも看護師が対象者の身体状態を把握することの重要性は非常に高い。臨床で出会う対象者になるべく近い設定で事例患者に出会い、生命力の消耗や日常生活力の低下につながっている症状に着目し、身体機能の理解に基づきながら身体状態を考察したり、治療の必要性について明らかにすることを通して、身体状態を把握していく過程とその実態を学ぶ。そして、それらを少人数グループで解決していくことで、個々が主体的・創造的な学習態度・学習習慣を獲得することを目指す。			
到達目標	1. 健康障害のある対象者の病理学的変化に基づき症状のメカニズムや治療の目的について明らかにし、対象者の身体的な健康上の問題について説明する。 2. 健康上の問題や課題を解決するために必要な学習態度・学習習慣を獲得する。			
授業計画	回	内容と方法	事前学習	事後学習
	1（2h）	講義・演習 【プロジェクト学習】 「ガイダンス」 「健康障害のある対象者に出会う」	自己学習課題提出	・GWの振り返り レポート提出
	2（2h）	演習 2回目【プロジェクト学習】	・各GWでの学習課題に基づく学習 自己学習課題提出	同上 レポート提出
	3（2h）	演習 3回目【プロジェクト学習】	同上 自己学習課題提出	同上 レポート提出
	4（2h）	演習 4回目【プロジェクト学習】	同上 自己学習課題提出	同上 レポート提出
	5（2h）	演習 5回目【プロジェクト学習】	同上 自己学習課題提出	同上 レポート提出
	6（2h）	演習 6回目【プロジェクト学習】	同上 自己学習課題提出	同上 レポート提出
	7（2h）	演習 7回目【プロジェクト学習】	同上 自己学習課題提出	同上 レポート提出
	8（2h）	演習 8回目【プロジェクト学習】	同上 自己学習課題提出	同上 レポート提出
	9（2h）	演習 9回目【プロジェクト学習】 発表	同上 自己学習課題提出	同上 レポート提出
	10（1h）	演習 10回目【プロジェクト学習】	自己学習課題	同上
	11（1h）	筆記試験		
必携文献	1) 佐藤達夫監修：新版 からだの地図帳，講談社，2013。 2) 山口和克監修：新版 病気の地図帳，講談社，2000。 3) 坂井健雄著：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学，医学書院，2018。 4) 田中越郎著：系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進〔2〕病態生理学，医学書院，2016。			
参考文献	1) 高木永子監修：看護過程に沿った対症看護 第5版 病態生理と看護のポイント，学研，2018。 2) 奈良信雄編：系統看護学講座 別巻 臨床検査，医学書院，2019。 3) 三輪一智他：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔2〕生化学，医学書院，2019。			
成績評価方法	参加姿勢やレポート提出等を含むプロジェクト学習評価（80点）と筆記試験（20点）の合計点が6割以上で合格とする。			
備考				

授業科目の区分	専門分野Ⅰ《基礎看護学》
授業科目	看護を展開する技術
開講年次・学期	2年次・前期
単位（時間）	1単位（30）
担当講師	《専任教員》看護師としての実務経験あり
科目のねらい	看護は人間が本来持つ自然治癒力を発揮しやすい環境を整え、健康の保持増進、疾病の予防、健康の回復、苦痛の緩和を行い、生涯を通してその人らしく生を全うすることができるよう支援することを目的としている。対象となる人はあらゆる発達段階・健康レベルにあり、多様な価値観をもつ生活者である。対象と丁寧にかかわりあい、対象の健康上の問題を見極め、その時最適かつ個別的な看護を提供するために、その基本となる思考過程を「看護を展開する技術」として習得する。時代が変わろうとも色あせない看護の本質・専門性についてともに考えられる授業としたい。
到達目標	看護の過程的構造とその展開方法が理解できる
授業計画	春期休暇課題 1回目 授業ガイダンス 看護の過程的構造 2回目 対象の全体像を捉える 3回目 看護過程の形式面（専門職の思考プロセスとは） 何がなぜ看護の情報なのか 4回目 演習①：観察による情報の収集 5回目 看護の視点と事実の情報化 6回目 演習②：全体像をとらえ看護の方向性を探る 7回目 情報の分析とは（情報の持つ意味を考えるとときに必要な知識と力） 8回目 看護上の問題を明らかにする思考 9回目 持てる力を活用した看護計画 10回目 演習③看護上の問題の明確化・看護計画の内容 11回目 看護記録は何のため？ 12回目 演習④：私の看護を実践する（事例患者に一人ひとりが看護を実践する） 13回目 実践を振り返り、評価する＜看護記録 SOAP 方式＞ 14回目 演習⑤：私の看護実践を評価し、よりよい看護を導き出す 15回目 看護過程とは 演習ではグループにわかれ、教員（看護の先輩）の指導をうけながら互いに学ぶ
必携文献	1）茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ，医学書院，2021.
参考文献	授業の中で紹介します
成績評価方法	課題の取り組み状況（春期休暇課題含む）・出席状況・学習への取り組みを総合的に判断し6割以上を合格とする 詳細は授業の中で説明する
備考	・理解を深めるためには、講義を聴くだけでなく、主体的に事前・事後学習に取り組むことが必須。 ・看護実践のための学習スキルを磨くには、「わからない」感覚を大切に、丁寧に訓練する姿勢が重要となる。 （倉敷中央看護専門学校細則 第5章 第11条（履修方法）3）より 看護を展開する技術の単位を修得した者でなければ、基礎看護学実習Ⅱ（看護過程の展開）を履修することはできない。